



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：ブシェール原発用核燃料のイランへの搬入

(12月17日付 IRNA 報道)

1. 12月17日、アガザデ副大統領兼原子力庁長官は、「露アトムストロイエクスポルト社(注：ブシェール原発建設請負会社)が同日ブシェール原発に核燃料の提供を開始した」との報道を確認した。

2. 同副大統領兼原子力庁長官の発言
 - (1)(全ての核燃料の搬送には2ヶ月を要するとの露側の立場について問われ)全ての核燃料がタイムスケジュールに従いイランに搬入されるよう今後も搬送作業は継続する。第一弾の核燃料は約80トンである。

 - (2)(核燃料が搬送され、核燃料供給保証がなされなければ、もはやウラン濃縮を行う必要はないと問われた場合のイランの回答について問われ)我々は、現在、360MWの自前の原発を建設中であり、同原発には核燃料が必要である。プランに基づき、360MWの原発の核燃料はナタンズ(濃縮施設)から供給されることとなっている。

 - (3)数年間にも亘る努力は、批判こそあったが、本日実った。今回の搬送は、露がイランの原子力活動が平和目的であることに関するIAEA事務局長報告を受け、イランとの協力を安心して継続できると確信するに至ったことを物語っている。今回の搬送は、アフマディネジャード大統領も述べている通り、イランの核問題が当然のラインに戻ったことを示している。